

令和 7 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 11			学校名			県立内原特別支援学校								学校長名		林 孝一			
副校長名							教頭名		中島 正憲						事務（室）長名		関 明美			
教職員数	教 諭	7 0	養 護 教 諭	2	常 勤 講 師	9	非常勤 講 師	2	実 習 助 手	2	寄宿舎 指導員	0	事務職員	3	技 術 職員等	1 0	計	1 0 2		
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1 年（3 歳児）		2 年（4 歳児）		3 年（5 歳児）		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	幼稚部																			
	小学部		1 0	6	5	2	1 7	3	1 7	8	5	7	5	5	5 9	3 1	2 1			
	中学部		1 1	4	8	0	1 0	4							2 9	8	1 0			
	高等部		5	6	4	4	1 0	2							1 9	1 2	7			
	専攻科																			
															小計	1 0 7	5 1	3 8		
															合計	1 5 8				

2 目指す学校像

- ◆安全安心な環境のもと、子どもを主語にして学びあえる学校
- ◆みんなが子どもの可能性を信じ、学び続ける学校
- ◆保護者・地域の人に関われ、みんなでつくる学校
- ◆子ども・保護者・地域の人・教職員みんなが Well-Being になる学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・世の中の状況：令和6年度の小・中・高校生年代の自殺者過去最多、いじめ・不登校過去最多、教職員の休職者過去最多、教員採用試験倍率低下 ・不登校者への支援の継続。全ての子どもが心理的安全性を感じ、信頼する学校への変革継続。 ・交流及び共同学習、地域の方の協力による授業づくり、PTA 活動の充実等による「つながり」づくりを進めている。 ・「対話」や「心理的安全性」「主体性」の大切さへの気づきが増えている ・対話による職場環境の改善で当事者意識を高めている。	・全ての児童生徒が主体的に学べる環境の実現 ・主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成 ・学校運営協議会導入の意義や目的の共通理解と社会に開かれた教育課程づくり ・考えが対立した場合の対話の難しさ、子どもをみんなでみていく「開く」意識の醸成 ・まだ多忙感を抱いている教職員が多いため、引き続きの改善見直し。
学習指導	・校内研修の中で、子どもたちが育つ環境・手立てについて話し合ったことが授業改善につながった。 ・単元計画を作成することにし、育みたい資質・能力の3つの柱を育成する場を設けようとしている。 ・高等部の生徒の実態や環境面を考慮した作業学習スタイルに取り組んでいる。 ・情報教育係を中心に主体的な研修が行われ、タブレット等 ICT の活用促進が見られる。	・教職員自ら主体的で対話的な業務遂行の文化（学びの相似形）の醸成 ・教職員一人一人の単元で授業をデザインする意識の涵養と負担の少ない RPDCA サイクルの構築 ・キャリア教育の充実、「職業」「職業・家庭」の充実 ・授業によって ICT 活用頻度に差がある。好事例発信不足。主体的な学びに向けての活用

4 中期的目標

- 1 安全安心な教育環境のもと、対話をもとに主体的な学びの充実。
- 2 子どもの可能性を信じ、ICT を効果的に活用し、選択肢を増やすことにチャレンジする。
- 3 コミュニティースクールを中心に校内での学びあい、地域での学びあいの充実。
- 4 最上位の目的・目標を合意した上でみんなが学校をつくるという当事者意識をもち学びを楽しむ。

5 本年度の重点目標 スローガン:「Well-Being」って?!

重 点 項 目	重 点 目 標
1 安全安心な教育環境の整備 と心身共に健康な児童生徒の育成	① 人権意識を高め、チーム担任制を意識し、対話を基本に子どもが信頼して安心して学べる学校づくりを目指す。 ② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実を図る。 ③ 様々な災害を想定し、環境面の充実と児童生徒が主体的に取り組む防災教育の推進を図る。 ④ 食育(個に応じた摂食指導、食物アレルギー等の適切な対応を含む)やいのちの安全教育を推進 ⑤ ヒヤリハット事例の検証と事故等の未然防止を徹底する。
2 これからを生きる子どもに合った学びの充実	① 「対話」を基本に「気づき」や「疑問」を大切にした子ども一人一人が主体的な学びを実感できる授業を実践し、学びあう。 ② 「知識・技能を習得」、「思考・判断・表現等を育成」、「学びに向かう力・人間性を涵養」できる場面を効果的に取り入れた単元の工夫 ③ 専門家と連携し、自立活動の視点を踏まえて授業を展開する。 ④ 子どもの主体性を引き出すICT機器の有効活用を推進する。 ⑤ これからを生きる子どもに合ったキャリア教育の充実と「職業・家庭」「職業」の充実
3 共につくる学校・地域社会	① 地域資源を活用した(地域の方が活躍、地域に貢献)体験的な学習の充実を図る。(地域が教室)(校外歩行、仕事しらべ、職業見学、職場体験など) ② 学びあう、つながる地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習を推進する。 ③ 教育・福祉・医療関係機関との協働的な専門性の深化 ④ 子どもたちの学びの様子や学校の取り組みが伝わる情報発信の工夫。
4 Well-Beingをめざして	① 「ありがとう」「やってみよう」「なんとかなる」「ありのままに」の実践から Well-Being を探究 ② 当事者意識をもった服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図る。 ③ 幸せに働ける心理的安全性のある風通しの良い職場の醸成と、適切なワークライフバランスに向けた働き方改革を推進する。 ④ 大人も子どもも主体的な行動を促し、認め、挑戦する人を応援する支援。失敗したら「やり直し」ができる環境づくり。